

Excel 表計算 関数基本講座

表計算ソフトの醍醐味は、関数を使いこなすこと、また作成された表をもとにして見栄えの良いグラフを作成すること、といえます。関数とか引数とか、耳慣れない用語にちよつと抵抗を覚えるかもしれませんが、我慢して慣れてください。

Excel には良く使われる計算処理や、条件判定などの論理演算処理のための関数が多数備わっています。ここでは数ある関数の中でも、良く使用されるものに絞って解説します。

関数とは

関数 (function) はもともと数学用語で、英訳でお分かりのように「機能」を表すものです。

例えば、SUM 関数は「合計を求めるための機能」であり、合計を求める時の最も簡単な記述方法なのです。数学の世界でもコンピュータの世界でも、決まりきった順序と計算(処理)を行うことが多いので、そのような機能毎にユニークな名前(できるだけ機能を示すようなもの)をつけて、関数と呼んでいます。

Excel には数値計算用だけでなく条件式用のものも含め、470 以上の関数が用意されています。Excel 画面の数式タブを見ると、数学/三角関数、日付/時刻関数、検索/行列、論理関数、文字列操作関数など、様々な切り口で多数の関数が用意されているのがわかります。

これだけ多くの関数が用意されていますので、どのような関数を使えば良いか、またその関数はどのような引数をどのように指定したら良いのかななどを、とてもすべてを覚えていることはできません。良く使う基本的な関数以外は、数式タブの左端にある「関数の挿入 (fx)」というアイコンを押して、関数の分類と関数名、あるいは「何がしたいか」を指定して、適切であろう関数を探すことから始めるのが一般的です。

ちなみに「すべて表示」では全関数名を一覧表示させることができます。

引数とは

引数(argument)は「ひきすう」と読みます。関数同様に数学用語で、機能処理をさせるための関数に引き渡す値のことで、「関数における処理対象データ」と考えればよいでしょう。

例えば関数の検索表示で、SUM 関数を選ぶと、「SUM(数値 1,数値 2,..) 引数の合計を返します」という説明がされています。ここで、数値 1、数値 2などが引数です。関数には引数がひとつのもの、複数のもの、数が決まっていないもの(例:SUM 関数は、最大 30 個までの引数指定が可)がありますが、引数がひとつもないもの(例:NOW 関数)も中にはあります。

引数は数値等の値そのものの場合もありますが、例えば「=SUM(A1:C8)」という風に、一般的にはセルの番地を記述することが多いといえます。